



国立民族学博物館 友の会ニュース

MINPAKU ASSOCIATES NEWSLETTER

「国立民族学博物館友の会」は「みんぱく（国立民族学博物館）」の活動を支援し、博物館を楽しく、積極的に活用するためにつくられました。

No.242

2018.1▶2

発行日 2018年1月1日

編集・発行一般財団法人千里文化財団

明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

二〇一八年は、みんぱくにとって、昨年一月に開館四〇周年を迎えたのちの、再出発の年になります。研究部は、昨年四月に全面的に改組しましたが、「特別研究」や「フォーラム型情報ミュージアム」など、数々のプロジェクトも、新体制のもとでの実施に拍車がかかります。次期のビデオテークと連動した次世代電子ガイドの開発も順調に進んでいます。

二〇一七年四月から小・中学生の入館料無料化を図ったところ、前年に比べて小学生の団体の入館者数が一・六倍に増加。また、入館者へ配布するパンフレットからみると、英語パンフレットの利用者が前年比約三倍、中国語パンフレットの利用者が一・三倍に増加するなど、民博は間違いなくより多くの方々に利用されるようになってきています。今後とも、開かれた博物館づくりに精進してまいります。友の会のみなさまの引き続きのご支援を心よりお願ひいたします。

新しい年がみなさまにとりまして実り多い年でありませう、お祈りしております。

吉田憲司



2018年も、
国立民族学博物館とみんぱく友の会を
よろしくお願ひいたします

多くの方にご参加いただきたい

国立民族学博物館友の会 制度改定のお知らせ

友の会では、みなさまのご要望を踏まえ、2018年4月より一部、制度改定をおこないます。詳細は、次号「友の会ニュース」にてご案内いたします。

同伴者1名が観覧料無料 になります

正会員の同伴者は1名に限り、下記サービスが適用になります。

- ・本館展示の無料入館
- ・特別展の観覧料割引
- ・友の会講演会の無料参加
- ・研修の旅等、友の会主催の催しの参加

新規会員種別 「ミュージアム会員」がスタート

繰り返し来館し、展示見学や催しへの参加を楽しみたい方におすすめです。みんぱくフリーパス*と同様のサービスに『月刊みんぱく』の送付が加わった、新規会員種別をご用意しました。年会費は5,000円です。

※「みんぱくフリーパス」は本館展示の無料入館、特別展の観覧料割引に加え、みんぱく周辺施設の利用が割引になる年間パスです(3,000円)。

より充実した普及事業のために — 寄附のお願い

『季刊民族学』の発行、各種催しの実施をはじめ、千里文化財団による民族学・文化人類学の普及事業は、みなさまのご支援により維持されております。このたび一口3,000円の寄附制度を設けました。ご理解、ご支援のほどよろしくお願ひいたします。

ご存知ですか？

『季刊民族学』バックナンバーを会員価格にてご提供しております。

世界の諸民族の社会と文化に関する情報をご提供する家庭学術雑誌『季刊民族学』。お手元に届く『季刊民族学』巻末の払込取扱票をご利用のうえ、お求めください。

1冊：会員価格2,160円(税込) ※1～100号までは1冊1,000円(税込)です。全巻ともに送料当方負担。



【募集】第77回体験セミナー

植物から博物学の世界を知る

— 東京大学総合研究博物館見学 —

講師：大場 秀章（東京大学総合研究博物館特招研究員、東京大学名誉教授）
池田 博（東京大学総合研究博物館准教授）

協力：東京大学総合研究博物館

日時：2月24日（土）13時～17時 ※申込締切：2月9日（金）

参加費：会員 2,000 円、一般 2,500 円

募集人数：30 名（最少実施人数 20 名）申込先着順

会場：東京大学総合研究博物館 [〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1]



シーボルトが採集したクリの標本（撮影・池田博）

実施内容

■レクチャー

本草学とその日本での歩み（講師：大場 秀章）

シーボルトが興味を持った本草学とはどのようなものなのか。また本草学が植物学にどのように引き継がれているのか。そして、江戸時代の人と植物との関わり方から、人と植物との共生を考えます。

■標本室（ハーバリウム）見学（講師：池田 博）

東京大学植物標本室（TI）には、およそ 170 万点の標本が収蔵されています。その中から、オランダから寄贈されたシーボルト関連の標本コレクション、新種を発表するときに使われたタイプ標本など、普段は目にすることのできない標本を見学します。

■標本整理作業見学

植物標本ができあがるまでには、採集→乾燥→ラベル作成→貼り付け→配架と、さまざまな工程があります。標本がつくれ、標本室に配架されるまでの過程について、現場をめぐりながら紹介します。また、標本のデジタル化・データベース化についても紹介します。

■常設展示室の見学

東京大学総合研究博物館は、2016 年 5 月に常設展示場をリニューアルし、「UMJUT オープンラボ — 太陽系から人類へ」としてオープンしました。東京大学が持つ膨大な資料を使い、現場に立つ研究者がどのように標本と接し、それらと「格闘」しているのかを、「研究現場展示」というコンセプトを掲げ示そうというものです。

申込方法

友の会事務局までお申し込みください。申込締切日（2/9）以降に参加要項と振込用紙を郵送いたします。

幕末に来日したシーボルトは、日本の植物に魅せられただけでなく、江戸時代の本草学者による植物の理解や描写にも感銘を受けたといわれています。本草学は、本来は薬として役立つ植物などを研究する学問です。日本では江戸時代に中国から移入された『本草綱目』が刺激となり活発化します。しかし、初めは文献から葉草についての知識を学ぶことが主で、実際に植物を観察することはほとんどしませんでした。しかし、一七〇八年に貝原益軒が『大和本草』を出版した頃から、自ら野山を歩き植物を観察するようになり、来日したシーボルトらの影響を受け、葉草以外の植物にも目を向ける植物学へと移行していきました。本セミナーでは、私たちに馴染みの薄い本草学が植物学にどのような影響をもたらしたのか、また本草学からは身近な植物と人との関わりについて考えます。講義に加え、標本室および東京大学総合研究博物館の常設展示室も見学します。



東京大学総合研究博物館（撮影・池田博）

【講師プロフィール】
◆大場 秀章（東京大学総合研究博物館特招研究員、東京大学名誉教授）
専門は植物分類学、植物文化史。日本やヒマラヤなどの植物の分類研究、ならびに人と植物の関わりについての研究を進めている。
◆池田 博（東京大学総合研究博物館准教授）
専門は植物分類学、植物地理学。主に東アジアに分布する植物（特にバラ科キジムシロ属）について研究を進めている。ヒマラヤ植物研究会会長。

ご参加ありがとうございました！

みんなく開館・友の会発足 40周年記念「みんなく大集合」

昨年 11 月 4 日（土）に開催しました「みんなく大集合」。記念対談「文化人類学と霊長類学——人類文化の普遍性をさぐる」、施設見学、懇談会ともに、全国からたくさんの友の会会員のみなさまにご参加いただきました。いずれのプログラムも、終始和やかな雰囲気の中を進めることができました。記念対談の内容は、『季刊民族学』164 号（2018 年 4 月発行号）で紹介する予定です。これからもみんなくと友の会をよろしくお願いたします。



■第473回■ タヒチとイースター島 —— 楽園と崩壊の対比

講師: 印東道子(民博教授)
日時: 1月6日(土) 13時30分~14時40分

ポリネシアの多くの島は(○世紀)ごろまで無人島でした。大陸から遠く離れたこれら熱帯の島々には、食用できる植物はほとんどありませんでした。それを楽園のような豊かな環境に作り変えたのは、海を越えて西から移住してきたポリネシア人でした。島という限られた自然環境に移住するにあたって、どんな準備や工夫をし、楽園とまで呼ばれた環境を作り出したのか、あるいは失敗したのか、タヒチとイースター島という対照的な例を紹介いたします。

■第474回■ 「みんなく名譽教授シリーズ」 日本文明の夜明け

講師: 梅棹忠夫と三内丸山遺跡
日時: 2月3日(土) 13時30分~14時40分

一九九三年に発見された三内丸山遺跡の六本柱の巨大モニュメントは、小規模な狩猟採集段階にあつたとされてきた縄文時代の社会の在り方の再考をうながしました。梅棹忠夫はこの遺跡を訪れたあと、「都市的性格が強く、その中心となつたのが神殿であつた」と述べました。日本の歴史を文明という一本の線上で捉えようとする、この大胆な仮説の成立過程とそれがその後の研究の展開にどのような影響を与えたかを考えます。

■第475回■ ※当日先着順・定員80名 「開館40周年記念企画展 アイヌ工芸品展」現れよ。森羅の生命(いのち)—— 木彫家 藤戸竹喜の世界(関連)

講師: 齋藤玲子(民博准教授)
日時: 3月3日(土) 13時30分~14時40分

藤戸竹喜氏(一九三四年~)は、旭川を拠点に「熊彫り」を生業としていた父のもとで二歳から木彫を始め、三〇歳で道東の阿寒湖畔に民芸品店とアトリエを構えて独立。熊を原点としつつ、狼や鹿など北国の野生動物とアイヌ文化伝承者の姿を木に刻み、繊細さと大胆さが交差する独自の世界を築いてきました。これらの作品は、いつどのように生まれたのか、ご本人からうかがった幼少時や青年期の話などを交えて、紹介いたします。

イベントスケジュール

- 開館40周年記念企画展 アイヌ工芸品展
「現れよ。森羅の生命(いのち)—— 木彫家 藤戸竹喜の世界」
1/11(木)~3/13(火)
- 年末年始展示イベント「いぬ」
開催中~1/30(火)
※年末年始休館日: 2017/12/27(水)~1/4(木)

- 友の会講演会
1/6(土) 印東道子、2/3(土) 小山修三
- みんなくゼミナール
1/20(土) 五十嵐聡美・貝澤徹・岡田恵介・齋藤玲子
2/17(土) 山中由里子
- みんなくウィークエンド・サロン
1/7(日) 菊澤律子・相良啓子、1/14(日) 卯田宗平、
1/21(日) 寺田吉孝、1/28(日) 横山廣子
2/4(日) 鈴木紀、2/11(日) 新免光比呂、
2/18(日) 笹原亮二、2/25(日) 齋藤玲子
- その他の催し
2/4(日) 連携講座 みんなく×ナレッジキャピタル
「フィールドワークを語る」民博展示ツアー
2/10(土) みんなく映画会・ワールドシネマ
「テレビジョン」
2/11(日) みんなく映画会・公開セミナー
「渡り鳥と人のかかわり」(仮題)

【館外での開催】

- カリッジシアター「地球探究紀行」
会場: あべのハルカス
1/10(水) 野林厚志、1/24(水) 池谷和信、
2/14(水) 横山廣子、2/28(水) 寺村裕史
 - 連続講座みんなく×ナレッジキャピタル
「フィールドワークを語る」
会場: グランフロント大阪
1/10(水) 伊藤敦規、1/24(水) 吉岡乾
- 【東京】
■東京講演会
1/27(土) 藤本透子

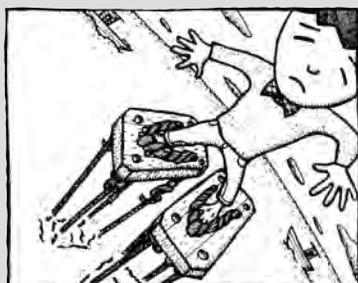
- ◆都合によりスケジュールが変更になる場合があります。
- ◆イベントの参加には必ず会員登録をご持参ください。

会員による会員のための学習機会 みんなく友の会雑学サロン

1/20(土) 「インドシナ半島・陸路国境越えの旅」
2/17(土) ぶらぶら民族学「京都・秀吉の史跡めぐり」
日時: 第3土曜日15:15~16:30 申込不要
場所: 本館2階第3セミナー室 会場にて友の会会員登録、フリーパスをご提示ください。

問い合わせ先: 田和、谷北、山本(実行委員)
zatsugakusalon@gmail.com

ぼくのみんぱく日記 画・中川洋典



十二月十四日(木)
昔、東京、赤羽
デ使ワレテイ
タ、海苔、下
馬、デス。
北月ガトテモ
高クナッタ
気がシマス。

■第121回 東京講演会■ 「北東アジア地域研究拠点関連」 カザフの食と儀礼

講師: 藤本透子(民博准教授)
日時: 1月27日(土) 13時30分~14時40分
会場: モンベル御徒町店4Fサロン

ユーラシアの広大な草原地帯で暮らすカザフの人びと。遊牧民であつた伝統を受け継ぐ彼らの食事の特徴は、乳製品や肉料理の種類の多さです。牧畜の年間サイクルと深く関わり、夏には乳製品づくり、冬には肉製品づくりと季節ごとに食は大きく変化します。また、人生の節目にも、子どものおこやかな成長や幸せな結婚生活などへの願いを込めて、草原の恵みを活かした料理がふるまわれます。本講演では、カザフの人びとの多様な食文化と食に込められた想いについて紹介いたします。

■第471回■ 2017年10月7日(土)

【企画展】「カナダ先住民の文化の力——過去、現在、未来」関連

カナダ先住民と建国一五〇年

——北西海岸先住民を事例に

岸上伸啓(民博教授)

二〇一七年は、カナダ建国一五〇年にあたる記念すべき年です。この講演では、カナダ政府による先住民政策の実施がどのような先住民社会の変化を引き起こしたかについて、北西海岸先住民を事例として紹介します。

カナダ先住民の歴史は一七六三年のイギリスによる植民地支配の確立や一八六七年のカナダ建国によって大きく変わりました。イギリス政府とカナダ政府は各地の先住民集団と土地譲渡条約を締結し、国土を拡大させました。さらに、カナダ政府は寄宿学校での教育や伝統儀礼の禁止などを通して、先



トライブル・ジャーニーズのカヌー

住民社会の文明化を図りました。とくにカナダ政府が一八八四年から一九五一年にかけてポトラッチ儀礼の開催と関連する儀礼具の制作を法律で禁止したことによって、北西海岸先住民の伝統的文化的の継承は大きなダメージを受けました。

しかし、一九七三年に先住民の土地権が消滅していないことがカナダ最高裁判所によって確認されると、カナダ政府は土地譲渡条約を締結していない先住民と諸権利について協議を開始し、先住民集団と徐々に協定を結んでいきました。その結果、ニスガやハイダなどの北西海岸先住民集団は、土地の所有・利用権や自治権、生業権、教育権などとともに補償金を獲得し、伝統的文化や母語の継承活動を積極的にこなうようになりました。また、サケ漁業や観光業、ワイン造醸、先住民料理レストラン、先住民アート制作などで経済的に成功する人も増加しています。彼らは、新たな先住民社会を創り出しつつあると言えます。

開催日：2017年10月18日(水)

会場：UCCコーヒー博物館、UCCコーヒーアカデミー神戸校

世界的嗜好品、コーヒーを知る

発祥の地、アラブのコーヒー文化と
UCCコーヒー博物館見学

講師：西尾哲夫(民博教授)、協力：UCCコーヒー博物館

新着資料展示「標交紀の咖啡の世^{しあぎゆきと}」^{アヒヒ}が開催されたこの秋、友の会でもコーヒーを知る体験セミナーを実施しました。ご協力いただいたUCCコーヒー博物館は、二〇一七年一〇月に開館三〇周年を迎えた日本で唯一のコーヒーの専門博物館です。本セミナーでは、飲用発祥の地、アラブのコーヒー文化に着目するとともに、講義・体験・展示見学をとおして世界的な嗜好品へと展開したコーヒーを概観しました。

試飲したアラブ遊牧民のコーヒーは、味も淹れ方も、日本人には馴染みのないもの。極浅煎りの豆を煮出し、香辛料を加えた飲み物は、まさに「薬」です。現地で調査を続けてこられた西尾先生によると「砂漠で飲むと喉が潤いスツキリする。体内の水分吸収率をあげる効果も指摘されている」そう。遊牧民にとっては、コーヒーがよそ者(客)を受け入れる緩衝材になる、というお話も興味深いものでした。

六〇〇年ほど前に中東で誕生したコーヒーを飲む習慣は、幾たびも「禁



UCCコーヒー博物館は、起源、栽培、鑑定、焙煎、抽出、文化の6セクションでコーヒーを紹介している

お問い合わせ、お申し込みはこちら

友の会はいつでも、どなたでもご入会いただけます。
国立民族学博物館友の会
一般財団法人 千里文化財団

〒565-8511
大阪府吹田市千里万博公園10-1(国立民族学博物館3階)
電話：06-6877-8893(平日9:00~17:00) FAX：06-6878-3716
e-mail：minpakutomo@senri-f.or.jp
https://www.senri-f.or.jp/minpaku_associates/

ホームページが新しくなりました

みんなく友の会を運営している千里文化財団のホームページとともに内容を一新しました。刊行物や催しものの確認にぜひご活用ください。

友の会

https://www.senri-f.or.jp/minpaku_associates/

千里文化財団

<https://www.senri-f.or.jp/>